

Abstract

AROMA RESEARCH No.69(Vol.18 No.1)

嗜好の形成と香りの寄与

坂井信之・丸山弘明・大沼卓也

<要旨>本稿では食品や嗜好品に対する嗜好の形成過程について、心理学的見地から概説した。最初に、我々が食品や嗜好品を口にしたときに生じる感覚は、味覚ではなく、風味知覚と呼ばれる味覚や嗅覚、口腔内触覚などの融合した経験であることについて述べた。次に、味覚については生得的な嗜好が強く、生後経験による変化は少ないことについて述べた。最後に、嗜好の形成における中心的な感覚は嗅覚であることを我々自身の研究を中心に議論展開した。

<キーワード>嗜好、味覚、嗅覚、口腔内触覚、学習